



古代東山道と生産遺跡分布図（●が今回の出土地点）

- 鑄造遺構等出土遺跡：①近江国庁跡 ⑤木瓜原遺跡 ⑨西海道遺跡 ⑩榊差遺跡
 ⑬矢倉口遺跡 ⑭岡田追分遺跡
 瀬田丘陵生産遺跡群：②源内峠遺跡 ③山ノ神遺跡 ④月輪南流遺跡 ⑤木瓜原遺跡
 ⑥笠山遺跡 ⑦観音堂遺跡 ⑧野路小野山製鉄遺跡
 古代東山道検出遺跡：⑩黒土遺跡 ⑪榊差遺跡 ⑫野路岡田遺跡

東山道Ⅰルート：足利健亮氏が想定したルート

東山道Ⅱルート：平成28年度調査で見つかった道路状遺構から推定されるルート

東山道Ⅲルート：平成13年度に野路岡田遺跡、平成27年度・29年度に榊差遺跡で確認された道路状遺構から推定されるルート

※①～④は大津市、⑤～⑭は草津市に所在します。



さかさざし

榊差遺跡発掘調査成果現地説明会資料

平成30年5月26日

13時30分～

草津市教育委員会文化財保護課

【調査概要】

調査地点 草津市野路町
 調査面積 約430㎡（平成29年度全体対象面積：11,356㎡）
 調査原因 南草津プリムタウン土地区画事業

【榊差遺跡について】

草津市の南部にあり、瀬田丘陵の先端部付近に位置しています。榊差遺跡の南西には、白鳳時代に建立されたとされる笠寺廃寺が所在しています。榊差遺跡のこれまでの調査では、飛鳥時代～平安時代の集落・古代の道路状遺構などが確認されています。

【調査成果】

鑄造遺構検出地点の北西側には湿地状の低地が広がるため、水気を嫌う鑄造遺構は、低地を避け高所に作られています。また、東側の溝状遺構と西側の鑄造生産を行う時に出る鉄くず（鉄滓）などが捨てられた不定形の土坑（くぼみ）に分けることができます。

<溝状遺構>

- ・検出された鑄造遺構の北東部分で確認されました。
- ・溝の一部に鉄滓などがまとめて廃棄されていました。
- ・溝の中から奈良時代前半の土器が出土しました。

<土坑>

- ・鑄型、鉄滓、炉壁、羽口、木炭片など鑄造関連遺物が廃棄された土坑が確認されました。
- ・土坑の中から奈良時代前半の土器が出土しました。
- ・国内最古の獣脚の鑄型が出土しました。



【まとめ】

近江は、古代から交通の要衝で、近江大津宮遷都前後から奈良時代にかけての製鉄・製陶などの生産遺跡が多く作られ（瀬田丘陵生産遺跡群）、豊かな生産力を持っていました。

市内では榊差遺跡の他にも、梵鐘鑄造を行っていた木瓜原遺跡（野路東）を初めとして、西海道遺跡（南笠町）、矢倉口遺跡（東矢倉）、岡田追分遺跡（追分）など飛鳥時代末から平安時代にかけての鑄物生産を行っていた遺跡が所在します。これらの遺跡は、木瓜原遺跡を除いて、古代の東山道沿いに所在しています。

このように、鑄物生産を行っていた遺跡が集中する地域は、全国的に見ても珍しいと言えます。これらの遺跡で作られた製品は、近隣の官衙（役所）や寺院に供給されていた可能性も想定されることから、古代の湖南地域の金属器生産の状況を知るうえで重要な成果と言えるでしょう。